

KRC WEB REPORT

徒然想

被爆地である広島や長崎にとって8月は特別なもの。広島で生まれ育った私は、今年の8月6日にあるイベントで祖母が晩年に語ってくれた被爆体験の話を見せて頂きました。当時、父親はまだ2歳でしたので何も覚えておらず、祖母から聞いた話は私にとって忘れられない衝撃となり心に刻まれています。他県から参加された方々も熱心に聞いてくださり、またお互いの思いや意見を交換することができ、とても有意義で貴重な時間となりました。

戦後67年という年月は、果たして「もう・・・」なのか、「まだ・・・」なのか。様々なイデオロギーを振りかざし罵りあう人間たちの喧騒の傍らで、「過ちは繰り返させぬから」と刻まれた慰霊碑が今日も静かに街を見つめています。

TECHNICAL TOPICS 今月の技術情報

国際学会「IABMAS 2012」への参加報告(その①)

2012年7月8日～12日の5日間、イタリアのマッジョーレ湖の湖畔の町、ストレザにおいて、IABMAS 2012 (International Association for Bridge Maintenance and Safety) が開催されました。

「IABMAS」は、橋梁の維持、安全、管理に関する国際学会であり、橋梁の補修・補強方法、管理手法、ライフサイクルコスト、安全性などをテーマに500編以上の研究成果等が発表されました。このうち、当社は、特別セッション「Optical Monitoring Techniques for Bridge Maintenance and Safety」において、発表2編、連名論文2編の計4編を投稿しました。

今回は、発表した論文のうち「Strain measurement of bridge members using Strain Visualization Sticker」について、紹介させていただきます。

近年、建設分野においても様々な物理量の「見える化」が進んでいます。そのような中、当社では、ひずみを可視化することのできるモアレ縞を用いた「ひずみ可視化シート」の開発を、広島大学大学院工学研究科 高木 准教授と共同で進めております。このシートは、発生したひずみ量に応じた文字や模様が表示され、目視にて概略のひずみ量を、デジタルカメラ等で模様を撮影して画像解析することにより正確なひずみ量を得ることのできるセンサです。

ひずみゲージのように電氣的な要素を使用せず、構造部材の発生応力を容易に把握することのできる技術として期待しているところです。「IABMAS」では、この「ひずみ可視化シート」の検証実験結果等について報告しました。

構造物の維持・管理におけるモニタリングの有効なツールの1つとなるよう、引き続き、「ひずみ可視化シート」の実用化に向けて、努力して参りたいと思っています。

IABMAS2012 公式サイト : <http://www.iabmas2012.org/>

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせ先: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm>



学会会場の前にて



発表の様子